



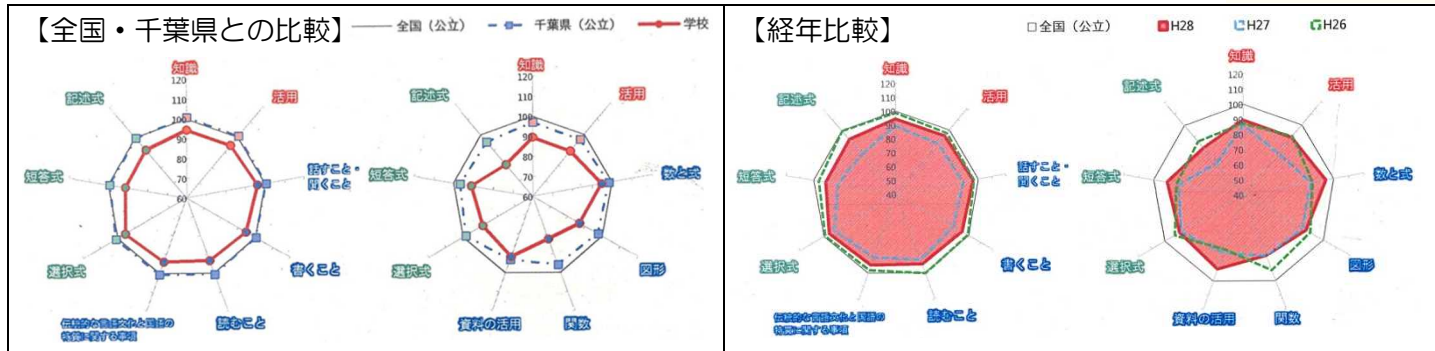
学校教育目標

「自主貢献」 自主的に判断・行動し、助け合える生徒の育成



研究主題 自主的に課題解決する生徒の育成 ～ケアのある学びを通して～

平成28年度「全国学力・学習状況調査」



- ・全国平均及び千葉県平均を下回る。
- ・記述式の問題を苦手としている。
- ・国語はA（知識）がB（活用）を上回っている。
- ・「話すこと・聞くこと」の正答率が高い。
- ・数学は、全国平均と比較するとA（知識）よりもB（活用）がやや上回っている。
- ・「数と式」「資料の整理」が全国平均に近づいている。
- ・「図形」「関数」の学力が著しく劣っている。

- ・国語,数学共に昨年度に比べ向上している。
- ・国語は記述式の正答率の向上が顕著である。
- ・数学は、B（活用）が一昨年度よりも上回っている。
- ・「数と式」「資料の整理」の領域は一昨年度と比較して大幅に向上している。
- ・「図形」「関数」の領域は、昨年度と変わらない。

- ～質問紙調査から～
- ・授業に臨む姿勢ができており意欲のある生徒も多数存在する。
 - ・集団生活の好ましいあり方や協力することの大切さなどを理解している。
 - ・ゲーム、メールをする時間、インターネットをする時間、テレビを見る時間が長い。
 - ・家庭学習の時間が短い。

- 【成果と考えられるもの】
- 「Kタイム」「数学検定」による基礎・基本の徹底、加配教員のサポート
 - 「ワンデーワンページ」による家庭学習時間の確保,提出と点検のサイクルの確立
 - 研究主題に基づいた校内研修による「授業改善」
 - 「QU検査」にみられる生徒の学校・学級生活の満足度の向上と,自治活動の充実「学校向プロジェクト」

- 【次年度への課題】
- 伸ばしたい学力の明確化
 - 「Kタイム」の内容の吟味・精選
 - 「QU検査」の活用による、生徒たちが学習に取り組みやすい環境や安心して生活できる雰囲気作り
 - 学習・自治活動・行事での成功体験の積み重ね

